

# 協働事業評価記入要領

※評価点の記入について

- ・各項目の評価基準に照らして達成度を5～1の5段階により評点を記入してください。
- ・事業の性質により評価が不適当な場合は「N」を記入してください。

【事業の計画づくりについて】		
1 目的の共有	協働の相手方と一緒に、それぞれが持つ目的の中から共通の目的を見出し、事業目的の共有化を図りましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・団体等のミッション実現に向けての有効性と区の政策・施策目的実現に向けた有効性について、双方で十分に検討を行い、一致した目的を共有した。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・団体等のミッション実現に向けての有効性と区の政策・施策目的実現に向けた有効性について、双方で十分に検討を行い、一致した目的を共有した。	
2 事業計画	事業の目的を明確にして、具体的な実施計画(何を、いつまで、どのように)を設定し、共有しましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・住民ニーズ、社会経済情勢を踏まえた適切な事業目的と、その実現に向けた具体的な実施計画を設定し、両者で十分に認識していた。 ・継続事業の場合には、前回実施した事業の検証結果を十分に反映して、実施計画を設定した。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・住民ニーズ、社会経済情勢を踏まえた適切な事業目的と、その実現に向けた具体的な実施計画を設定し、両者で十分に認識していた。 ・継続事業の場合には、前回実施した事業の検証結果を十分に反映して、実施計画を設定した。	
3 協働の必要性	協働の相手方と一緒に協働事業を行うことの意義・効果について、十分に検討しましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・なぜ協働を行うのか(相手に何を期待して協働を行うのか)を明確にし、組織内で認識の統一を十分に図った。 ・それぞれが単独で実施する場合と比べて、協働で事業を行うことがより高い事業効果につながるか、十分な検討を行った。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・なぜ協働を行うのか(相手に何を期待して協働を行うのか)を明確にし、組織内で認識の統一を十分に図った。 ・それぞれが単独で実施する場合と比べて、協働で事業を行うことがより高い事業効果につながるか、十分な検討を行った。	
【事業実施体制について】		
4 役割分担の明確化	協働の相手方と事業実施にあたっての役割分担を明確に定めましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・相手方との十分な話し合いのもとに、契約等において各々の役割・責任の分担を明確に定め、共通認識を図った。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・相手方との十分な話し合いのもとに、契約等において各々の役割・責任の分担を明確に定め、共通認識を図った。	
5 事業の進行管理	事業の進行管理については、相手方と双方で適切に行いましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・協働の相手方と、それぞれの立場から、事業の進捗についてチェックを行い、必要に応じて修正を図った。 ・事業の進捗状況について、相手方との間で必要に応じた話し合いの機会を設けるなど、十分に情報の共有を図った。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・協働の相手方と、それぞれの立場から、事業の進捗についてチェックを行い、必要に応じて修正を図った。 ・事業の進捗状況について、相手方との間で必要に応じた話し合いの機会を設けるなど、十分に情報の共有を図った。	
【事業を振り返って】		
6 事業の検証機会の設定	組織内部や相手方との間で事業成果等を検証する機会を持ちましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・組織内部で振り返りの機会を設け、事業の成果や課題について十分に検証した。 ・相手方との間で振り返りの機会を設け、事業の成果や課題について十分に検証し、記録に残した。 ・(区)団体等から事業に関連した提言を受けた場合、課題の一つとして捉えた。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・組織内部で振り返りの機会を設け、事業の成果や課題について十分に検証した。 ・相手方との間で振り返りの機会を設け、事業の成果や課題について十分に検証し、記録に残した。 ・(区)団体等から事業に関連した提言を受けた場合、課題の一つとして捉えた。	
7 役割の達成度	協働を進める上で、それぞれの役割は十分に発揮されましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・協働により事業を行った結果、それぞれの役割は、企画・準備段階での設定に照らして十分に発揮できた。 ・企画・準備段階で設定した、それぞれの役割分担は、事業目的の実現に十分有効であり、結果的に適切であった。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・協働により事業を行った結果、それぞれの役割は、企画・準備段階での設定に照らして十分に発揮できた。 ・企画・準備段階で設定した、それぞれの役割分担は、事業目的の実現に十分有効であり、結果的に適切であった。	
【事業の実施効果について】		
8 協働による事業効果	協働で実施したことが、より高い事業効果につながりましたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・事業目標の達成度、受益者の満足度などから、企画・準備段階で想定していた協働による事業効果を十分に達成した。 ・事業費の配分、実施時期や期間、人員の配置などが、事業効果の観点から十分に適切であった。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・事業目標の達成度、受益者の満足度などから、企画・準備段階で想定していた協働による事業効果を十分に達成した。 ・事業費の配分、実施時期や期間、人員の配置などが、事業効果の観点から十分に適切であった。	
9 施策目的(ミッション)の実現	団体等にとってのミッション、区にとっての施策目的の実現に有効でしたか。	
	<table border="1"> <tr> <td>評価基準 (評価に当たっての着眼点)</td> <td>・(団体等)この事業が効果的に実施され、ミッションの実現に大きく寄与した。 ・(区)この事業が効果的に実施され、政策・施策目的の実現に大きく寄与した。</td> </tr> </table>	評価基準 (評価に当たっての着眼点)
評価基準 (評価に当たっての着眼点)	・(団体等)この事業が効果的に実施され、ミッションの実現に大きく寄与した。 ・(区)この事業が効果的に実施され、政策・施策目的の実現に大きく寄与した。	

5	十分に達成された。 (達成度: 80～100%程度)
4	(達成度: 60～80%程度)
3	一部問題はあったものの、概ね達成された。 (達成度: 40～60%程度)
2	(達成度: 20～40%程度)
1	未着手または達成度が著しく低かった。 (達成度: 0～20%程度)
N	事業の性質上、この評価項目による評価は不適当。